

令和7年 3月 31日

世田谷区立山野小学校
学校関係者評価委員会
委員長 長島 知数
校長 薄井 康裕

令和6年度学校関係者評価委員会報告書

山野小学校学校関係者評価委員会では、令和6年11月に実施された「関係者アンケート調査集計結果」及び学校より提出いただいた「自己評価報告書」「重点目標の自己点検」をもとにその分析・評価を行いました。あわせて教員の先生方とのヒアリングを通じてみてきたことや感じたことを議論し、結果を以下のようにまとめましたのでご報告させていただきます。

<アンケートの回収について>

学校より通知いただいた今年度の保護者に関するアンケートの回収率は全校で72.8%と前年に比較して約8%上昇しました。アンケートの回答方法がWebをつかったものになったため、紙での回収に比較して強制力が弱くなかったことは影響していると考えられますが、先生方のアンケート回収へ向けた努力のおかげもあり少しづつ回答率があがっています。ぜひ今後も継続していただきたいです。いずれにしても、山野小学校の場合世帯数が多いため評価の分析には十分であるといえますが、より精度の高い結果を望むのであれば回収率を高めていく必要があります。地域アンケートについては今年度回答率が42.1%でした。76人に声掛けをした上でこの回答率なので、次年度も継続して依頼をかけていきたいと考えます。

<重点目標に関する評価>

今年度学校経営方針の中で策定されている重点目標について、本アンケートの結果を踏まえて評価委員会にて議論し、評価いたしました。評価する項目については、山野小学校の内部評価(自己点検項目)に従って関係しそうなアンケート項目をピックアップしています。評価については、アンケートの肯定的評価が80%以上になっていれば目標達成であるとして考察しました。以下記載いたします。

※報告書の中で肯定的評価と記載しているのはアンケートの「とても思う」「思う」の割合を合計したものです。

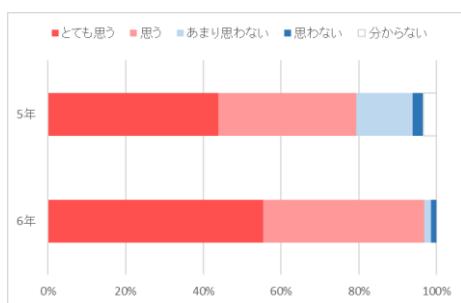
重点目標：人の心を感じ、ともに生きるコミュニケーション力と社会的マナーの育成

【内部評価①】：わかる授業づくりを工夫する／基礎基本の定着を図る／考え方や学んだことがわかるノート指導を工夫する

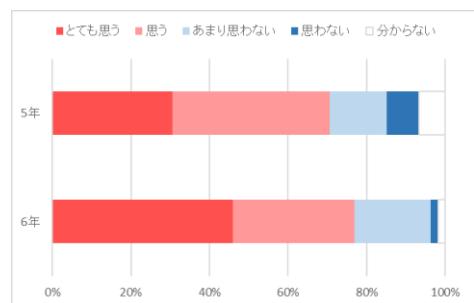
>>評価委員による評価・考察

児童アンケートのI-(2)先生は課題(めあて)について自分で考えたり友達と考えたりする時間授業の中で取っている、I-(3)先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫している、I-(5)先生は映像やタブレットを工夫し分かりやすい授業をしている、独-(5)私は授業中タブレットを活用できている、の4項目の結果をみると、I-(2)は88.1%、I-(3)は73.7%、I-(5)は84.3%、独-(5)は94.0%という肯定的評価であり、I-(3)以外の項目は80%を超える高い達成率でした。

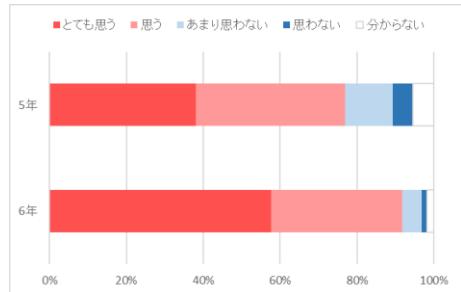
一方、同様の質問に対する保護者アンケートのI-(1)本校は子どもが考えることや課題を解決することを大切にした授業を行っている、I-(2)本校は黒板の書き方やプリントなどを工夫している、I-(4)本校は映像やタブレットを工夫し分かりやすい授業をしている、の結果をみると、全学年平均ではI-(1)は81.1%、I-(2)は76.0%、I-(4)は79.3%となっており、I-(1)以外の項目は80%を下回る評価でした。



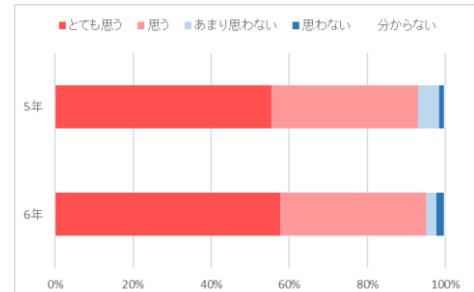
児童-1-(2)



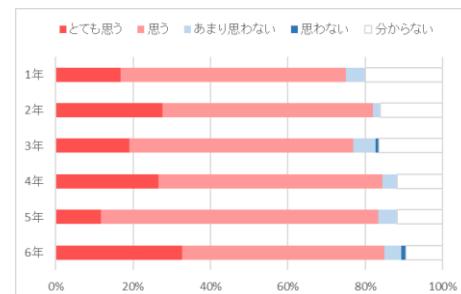
児童-1-(3)



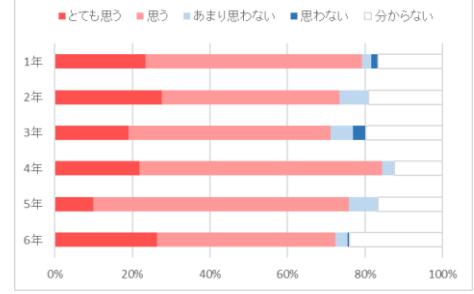
児童-1-(5)



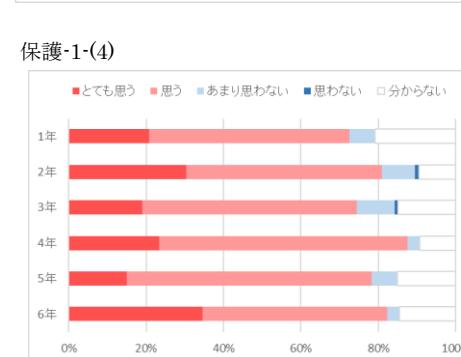
児童-独-(5)



保護-1-(1)



保護-1-(2)



保護-1-(4)

授業そのものの評価については、児童-I-(2)、I-(5)の評価が80%を超えていることからかなり高いとみてとれます。例年同じコメントで申し訳ないですが、これは大いに評価すべきであり先生方の日々の準備や授業に取り組む姿勢が今年も評価されたものと考えます。しかしながら、少し気になる点があります。児童-I-(3)の評価が73.7%であり、かつ5年生の結果をみると70.7%と例年に比較して低かったのです。毎年多少のバラつきはありますから気にしなくていいのでは、ともいえますが、無視していい数字でもないと考えました。5年生の児童と職員の間に何があったのか詳細まではわかりませんが、結果として出ている事実については向き合っていただき、次年度につなげていただきたいです。

また、独-(5)の評価については本年も94.0%という結果でした。ICTの活用ができるできないという点においてはほとんど問題ない状況だといえます。強いて言えば、約2%の児童については活用できていないと感じています。高学年でこの回答は今後授業についていけなくなる可能性があり、どのように引き上げていくのかを考える必要があります。

一方で保護者からみると、昨年に引き続き今年度も1割～2割程度「分からない」という回答がありました。しかしながらそれ以外の保護者については肯定的評価が高く、先生方の授業に対する満足度が高いのがみてとれます。5年生の保護者についても「とても思う」という評価の割合は他の学年に比較して低いものの、肯定的評価全体としては問題があるようにはみえません。引き続き児童や保護者から評価されるような授業を継続していってほしいです。

<< 学校からのコメント >>

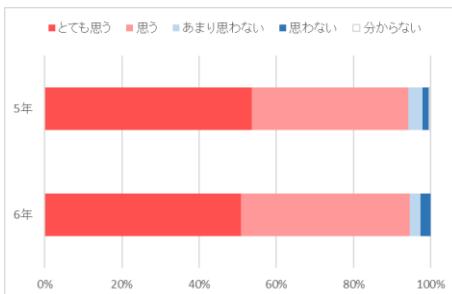
○今回も授業に対する満足度は80%超えました。毎年のことではありますが、学年によってばらつきが生じています。「無視して良い数字ではない」という指摘はその通りだと思います。学年ごとに雰囲気が異なりそれに特徴はあると思っています。授業の質については、どの学年も同じように満足度を維持していくよう努めています。

【内部評価②】：発言や意見交換の仕方が身につくよう指導する

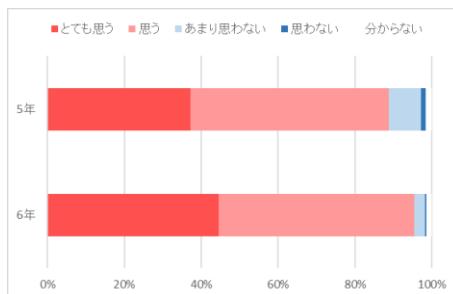
>>評議委員による評価・考察

児童アンケートのI-(4)授業では話し合ったり発表し合ったりする機会がある、独-(1)私は授業中自分の考えをもつことができる、独-(2)私は授業中自分の意見を書いたり発言したりして伝えようとしている、独-(3)私は興味を持ったことにすんで調べようとしている、の結果をみると、I-(4)は94.4%、独-(1)は92.1%、独-(2)は66.9%、独-(3)は79.1%という肯定的評価でした。保護者アンケートのI-(3)本校は子どもが考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある、独-(2)本校は授業を通して学力向上を図っている、の結果をみると、I-(3)は84.2%、独-(2)は86.1%、と80%を超える評価となっています。

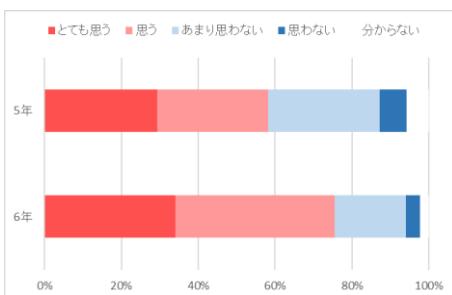
児童-1-(4)



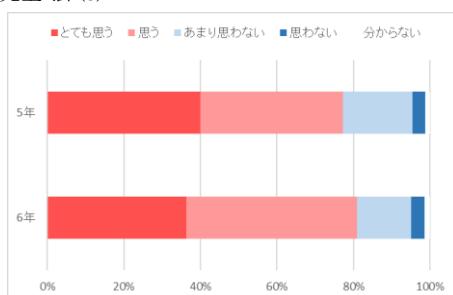
児童-独-(1)



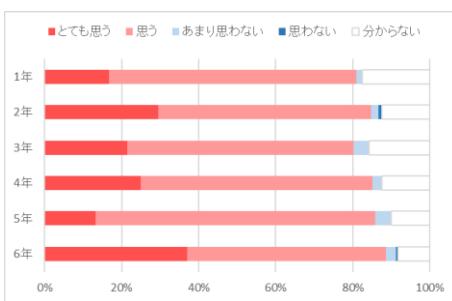
児童-独-(2)



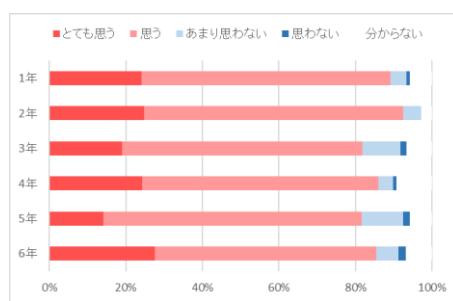
児童-独-(3)



保護-1-(3)



保護-独-(2)



全体的な評価としては、児童も保護者も肯定的評価は高い数字となっており、先生方が発言の場や児童同士が意見交換できるような授業をしていることがあらわれているといえます。昨年独自項目を変更し、流れを作りましたのでそれに沿って考察いたします。

I-(4)自分が考えたことを話し合ったり発表する機会はある(94.4%)→独-(1)授業中に自分の考えをもつことはできている(92.1%)→独-(3)興味をもったことにもすすんで調べようとしている(79.1%)→独-(2)授業中に自分の意見を伝えることができずにいる(66.9%)

今年度も昨年と傾向はかわりませんでした。矢印の方向へ進むにつれて肯定的評価がさがっています。まとめると、考えをもっておりすすんで調べているにもかかわらずまわりにそれを伝えることができていない、ということです。社会になると、自分の意見をまわりに伝える場面というのは数多くでできます。上手に伝えたり、その場にあった発言ができるかどうかはまた別のスキルだと考えますが、少なくとも伝えることができないとコミュニケーションが成立しません。小学校の段階で完璧にすることが難しいのはよくわかりますし完璧である必要はないと思いますが、ぜひ先生方には子どもたちが自信をもって伝えられるよと言えるようご指導いただければ嬉しいです。

<< 学校からのコメント >>

○毎年の傾向ではあります、発言や意見交換の仕方が身に付くよう、指導を重ねる必要性を感じています。考えは持っていますが、意見を伝えることができずにいる児童が一定の割合で存在しています。それぞれ異なるスキルではありますが、改善が必要な部分と思われます。

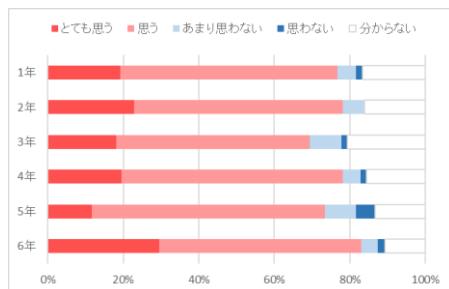
○タブレットの操作に慣れてきており、ソフト上で書き込みますと、黙っていても意見表明ができてしまいます。授業ではあえて隣の人と意見交流をしたり、散歩交流をさせたりなどの工夫を行っています。全体の場でも大きな声で分かりやすく発表するという経験が不足しているのが現状です。

【内部評価③】：児童なりに判断し行動する力を育てる

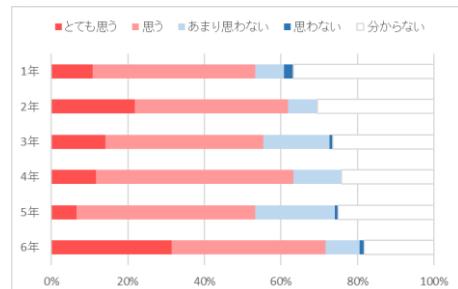
>>評価委員による評価・考察

保護者アンケートの2-(1)本校は学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている、4-(1)本校の教員は子どもに目標をもたせその実現のために支援している、4-(2)本校は子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている、の3項目の結果をみると、2-(1)は76.4%、4-(1)は59.8%、4-(2)は54.2%の肯定的評価であり、特に項目の4については目標を大きく下回る結果となりました。

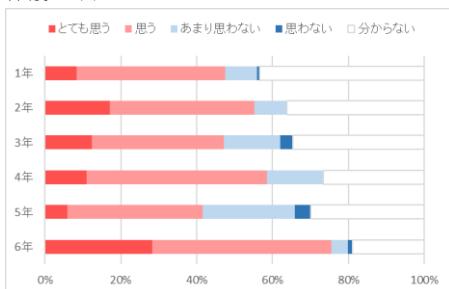
保護-2-(1)



保護-4-(1)



保護-4-(2)



毎年この質問をみて思うのですが、「わからない」が多くなって当然ですよね。質問の内容について答えようと思うと、先生方がどのような授業をおこなっているのか保護者が詳細を把握していかなければならないからです。それでも肯定的評価が50%以上でていることがすごいといえるのではないでしょう

か。昨年も指摘しましたが、行政が学校に求めていることを保護者に伝わっているよね、という意味を込めてアンケートをとっているとしたら無理があります。先生方は通常のカリキュラムをこなしていくだけでも大変なのに、項目の4で求められていることを実現していくのはかなり難易度が高いように想像します。しかもそれが保護者に伝わるためにはこんなことをしているよ、という発信が重要です。

項目4において、6年生の結果をみると肯定的評価が7割を超えており、保護者から高い評価を得ていることがうかがえます。中学校進学を控え将来を考える時期でもありますから、保護者が情報に敏感になっていることも影響していると思いますが、就活イベントなど学年で色々と考えて様々なイベントを実施していることが保護者に伝わっているのでしょうか。しかしながら、こういった本来のカリキュラム外のイベントを実現するためには先生方にかなりの負荷がかかります。全ての学年において実施できるのか、また毎年のイベントとして確立できるのか、を考えると難しい問題なのだろうと推測します。

一方で保護者からの評価があがっていることも事実です。学校の重点目標にも通ずると思いますので、ぜひ学校内でも話し合っていただきたいです。

<< 学校からのコメント >>

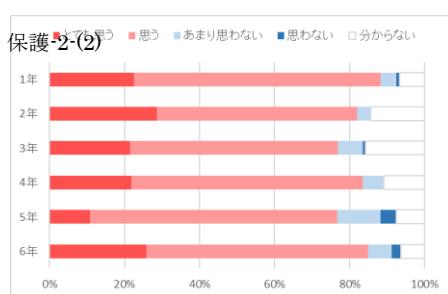
○「子どもの生き方や将来のことについて考える授業」をしているかどうかは、見えにくい部分だと思います。世田谷区が重点を置いているキャリア・未来デザイン教育に関する取り組みは、全学年で行っています。主にゲストティーチャーをお招きしてお仕事に関する話を聞くことが多いのが現実です。2年生は以前からまち探検で商店街等に出向き、直接働いている方にインタビューしています。

○今年度は、6年生が日大商学部とコラボして、金融教育を中心に、本校独自のキャリア教育を進めました。商学部の教授の授業を受けたり、学生からアドバイスを受けたりして、自分たちで資金のやりくりを意識しながら起業体験をすることができました。今後は、6年生で起業するために下の学年でどのような力を育て積み重ねていくか、学年の発達段階や系統性を考えながら、計画的に進めていくことになります。

【内部評価④】：社会的マナーを育成する

>>評価委員による評価・考察

保護者アンケートの2-(2)本校は教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している、の結果をみると、82.0%の肯定的評価であり、目標を達成できています。



社会的マナーに直接つながるかはわかりませんが、アンケート項目の中では近いと判断し関連付けて評価しました。この結果は昨年より 5.6% 低くなり、「わからない」の割合が増えました。たまたま今年だけのブレのようなことであればいいのですが、来年度もチェックしたいと考えます。この項目が 8 割を超える肯定的評価を得られている状況はとても素晴らしいことだと考えます。昨年と同じコメントにはなりますが、現在の山野小学校は非常に落ち着いています、と言われていることの裏付けがこういったアンケートの項目にもあらわれているのではないかと推察します。

<< 学校からのコメント >>

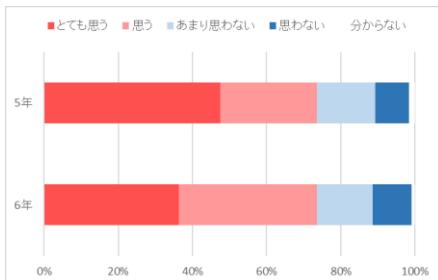
○学校が落ち着いている様子が、アンケート結果にも表れているという評価でした。子どもたちも学校のルールを守り生活していることが分かります。更に、一人一人の児童にとって居心地の良い空間になるよう、教職員一同、指導を続けていきます。

>>評価委員による評価・考察

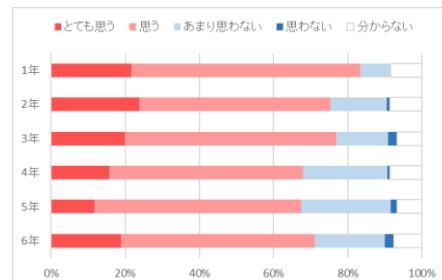
児童アンケートの独-(7)私はすすんで運動したり体を動かす遊びをしたりしている、の結果をみると、独-(7)は 73.6% の肯定的評価であり、目標を達成することはできませんでした。

また、同様の質問に対する保護者アンケートの 6-(5)子どもは体力の向上や健康な生活に取り組んでいる、独-(7)子どもたちはすすんで運動したり体を動かす遊びをしたりしている、の結果をみると、全学年平均では 6-(5)は 73.6%、独-(7)は 70.1% の肯定的評価であり、同じく目標を達成することはできませんでした。

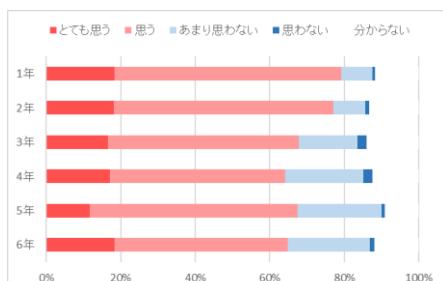
児童-独-(7)



保護-6-(5)



保護-独-(7)



質問の中で、学校内でという条件をつけておりませんので、生活の中で体を動かすことができているかどうか、という視点でのアンケートになっています。高学年ならではなのかもしれません、今年度

も児童アンケートの結果としては肯定的評価が8割を超えることはありませんでした。先生方の内部評価でも項目があるように、子どもたちの体力向上については学校でも取り組んでいることと思います。ただ、「すすんで運動する」という表現は学校内だけではなく、どちらかといえば学校外での運動をイメージするはずです。放課後、子どもたちが積極的に運動することを学校から働きかけるのははっきり言って難しいですから、このアンケート項目をみて体力向上に取り組ませているかどうかを判断することはできないかもしれません。評価項目としては参考数字として捉えていただければ幸いです。

正直山野小学校の子どもたちだけではなく、世田谷区内の子どもたちが満足に運動できる環境や状況にあるかといえば疑問です。また、運動の得意不得意によっても割合は左右されます。極端に数字が下がることがない限りは毎年同じような数字で推移することを良しとするのもアリなのかもしれません。評価委員としては、願わくば小学校時代には多くの子どもたちがすすんで運動をしていてほしいと思っています。

<< 学校からのコメント >>

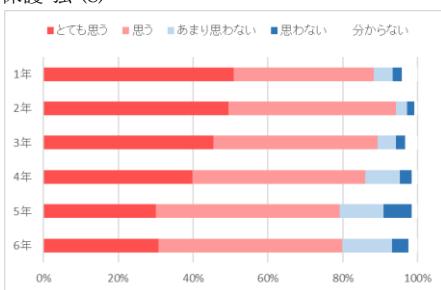
○「すすんで」というほど体を動かせていないことを、児童も自己評価していると思われます。年間を通して、体つくりのためになわとびやマラソンの週間をもうけています。たとえば、4階の教室から第二校庭までは、距離もあり時間も掛かりますので、外に出るのがおっくうになってしまいます傾向があるかもしれません。熱中症指数が高く、外遊びができなかった日も多くありました。とはいえ、成長期の子どもたちにとって、休み時間に体を動かすことは重要で、できる限り保証していきたいと考えています。

【内部評価⑦】：マナーを守って食べるよう指導する

>>評価委員による評価・考察

保護者アンケートの独-⑧子どもたちは学校の給食を楽しみにしている、の結果をみると、独-⑧は86.1%の肯定的評価であり、目標を達成することができます。

保護・独-⑧



今年度の独自項目については、児童に対しての食事に関する項目についてはずしました。一昨年までは食事の好き嫌いやマナーなどについて評価していましたが、昨年は給食のマナーに限定して質問しました。これについては子どもたちの肯定的評価が高いという結果を得られました。今年度も、給食中の食べ方についてはコロナ以前に戻ることはなく、先生方もマナーを指導する状況ではないということが

わかりました。そこではや子どもたちに給食中のマナーについて質問することもないだろうという結論に至ったわけです。その代わり保護者の皆さんに子どもたちが給食を楽しみにしているかどうか、という質問をすることにしました。結果として8割を超える肯定的評価となったことは喜ばしいことだと考えます。特に山野小学校では校内で調理しており、子どもたちの栄養を考えて工夫を凝らした給食が提供されています。例えば勉強や運動があまり得意ではなかったとしても、給食を楽しみに学校に来ることができたとしたら、それだけでも素晴らしいことだといえるのではないかでしょうか。今後も独自項目の一つとしてウォッチしていきたいと考えています。

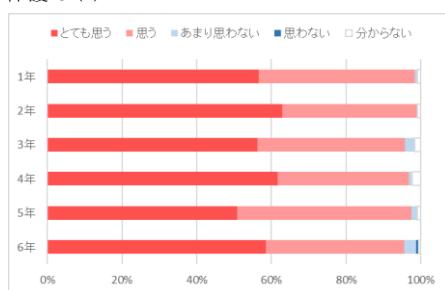
<< 学校からのコメント >>

- 給食については、高い肯定的評価を得ておりうれしい限りです。栄養士が変わり、メニューも少しずつ改良が加えられています。今まで使わなかった食材や様々な国のメニューも増えてきています。これからも季節や行事に合わせた献立が工夫されていく予定で、楽しみです。
- コロナ禍以降、全員が前向きで食事をしています。マナーを守りながらも、以前のように班ごとに机を合わせ、楽しくおしゃべりしながら食事をするという日常が戻ってくることを願っています。

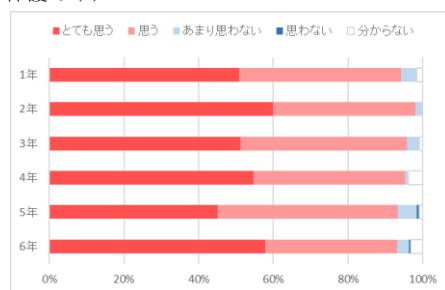
<子どもたちと学校の関係性について>

3-(1)学校行事は子どもにとって楽しい、3-(2)学校行事は子どもにとって達成感がある、3-(3)本校は子どもの意欲を大切にしている、6-(1)本校の学校生活は子どもにとって楽しい、の4つの項目の結果をみると、すべての項目において学年平均が90%を超えており肯定的評価がとても高いことがわかります。

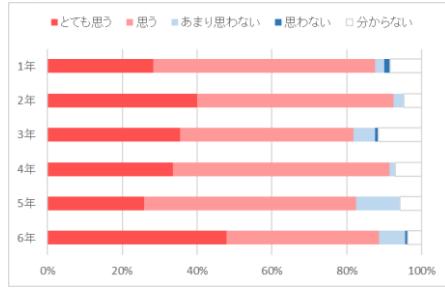
保護-3-(1)



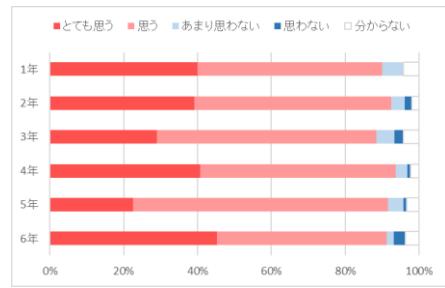
保護-3-(2)



保護-3-(3)



保護-6-(1)



毎年の評価にはなりますが、これらの項目に関する保護者の肯定的評価が高いというのは素晴らしいことであると考えます。特に、3-(1)と3-(2)については、肯定的評価のうち「とても思う」の割合が5割を超える高い評価でした。これは、山野小学校が開催する学校行事に対して保護者の皆さんのが大きな満足を示していることの現れです。普段の授業はなかなか見えにくい面がありますが、学校行事は保護者も目にしたり耳にする機会が多いためある意味ストレートな感想を得やすいという側面があります。その結果が高い肯定的評価ですから、これは学校に対する大きな信頼の証であるとともに、先生方の指導や校長先生の経営が保護者の皆さんから支持をうけていることの証明であるといえます。

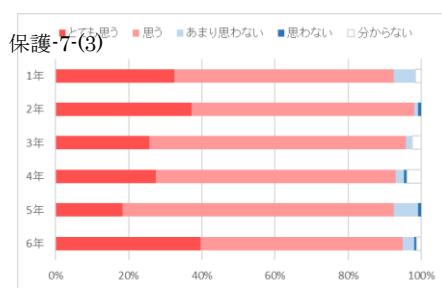
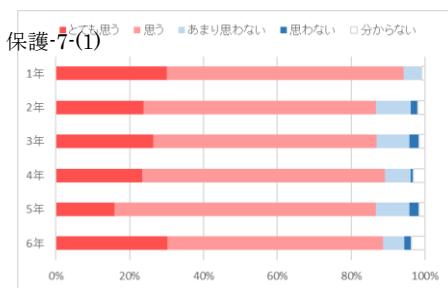
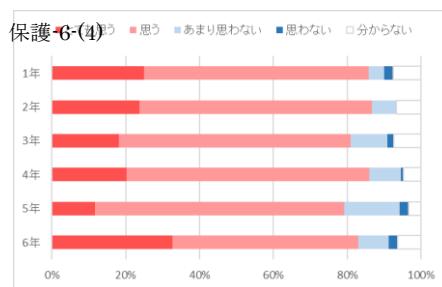
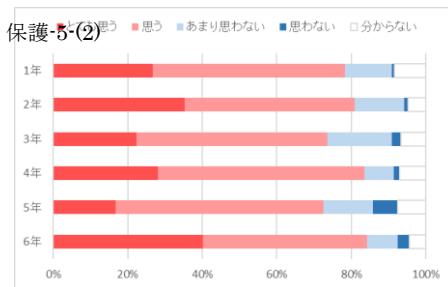
山野小学校の特徴ともいえるフェスタについては最大の学校行事ですが、今年度も評価委員会からのヒアリングや、内部評価において先生方からご意見が寄せられました。昨年から少しずつフェスタの形式を変えることによって、通常授業に影響を与えすぎないよう共存をはかる動きがすすんでいます。また、学年ごとにはなりますが、様々なイベントの企画もありました。学校行事というものはその学校の特色となりうるものですが、それを企画運営していく先生方は異動により少しずつメンバーがかわっていきます。それでもこれはいい、毎年やっていこう、と先生方が思えるようなものでなければなりません。まさに「変わらないために変わり続ける」ことが大事なのではないでしょうか。毎回記載していくが、ぜひ学校関係者に協力を仰ぎながら今後も学校経営の中で試行錯誤していってほしいです。

<< 学校からのコメント >>

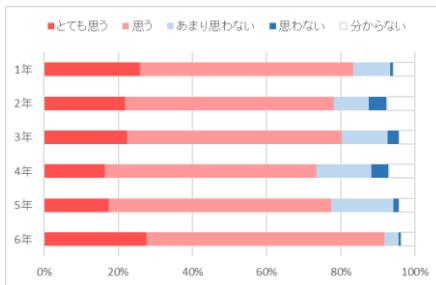
○子どもと学校の関係性は、とても良い状態にあることが分かります。コロナ禍以降、3大フェスタの形式を少しずつ変更し、授業時間の確保と教職員の負担感の軽減を両立しながら、内容の充実に努めてきました。今後も様々な方面からのご意見を聞きながら、より学校に関わる人全員にとってよりよいフェスタの在り方を考えていく必要があります。「変わらないために変わり続ける」という報告書の提言を真摯に受け止め、検討を続けていきます。

<保護者と学校の関係性について>

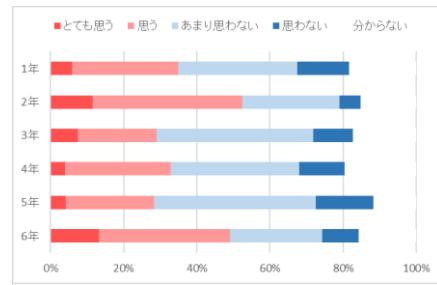
5-(2)本校は子どものことを相談しやすい、6-(4)本校の教育活動に満足している、7-(1)本校は様々な便りなどで保護者に情報を提供している、7-(3)本校は学校公開や保護者会などで児童の様子が分かる、7-(4)本校はホームページやメールなどで保護者に情報を提供している、独-(9)保護者同士のかかわりが十分に取れている、の6つの項目の結果をみると、5-(2)は83.5%、6-(4)は84.0%、7-(1)は90.9%、7-(3)は92.5%、7-(4)は85.2%、独-(9)は33.0%の肯定的評価でした。



保護-7-(4)



保護-独-(9)



5-(2)、6-(4)、7-(1)、7-(3)、7-(4)、の結果をみると、全ての項目において8割を超える肯定的評価であり、特に7-(1)、7-(3)、の項目においては9割を超えました。この結果をみると、先生方や学校に対する保護者からの信頼を感じることができます。7-(1)、7-(3)、7-(4)はすべて学校側からの情報提供に関する項目ですので、積極的に保護者へ情報提供をおこなっている様子がみられ大いに評価できるといえます。特にコロナ以降、学校と保護者の関係性は変わったまま以前の状態まで戻りきることは難しいように感じます。こういった状況下では先生方からの情報や学校からの発信によって授業や学校の様子を知ることができるのは保護者にとって安心につながります。

人員不足もあるかもしれません、若干ホームページに関しては十分な情報提供ではないと感じている保護者がいます。先生方の声に、ホームページに掲載する情報は給食の様子だけでいいのだろうかと

いう疑問がありました。客観的に見た際にはやはり古臭さが残るデザインですので、もし掲載する情報を増やすのであればあわせてサイトの建付けもリニューアルしたほうがいいのではないかなど提言したくなりますが、世田谷区内全校のホームページとなると予算をつけるのが困難であることは想像できます。ここは区議会議員にも頑張ってほしいところです。

今年度も、独-(9)は肯定的評価がとても低いという結果になりました。保護者同士のかかわりがほぼとれていないという現状です。毎年評価委員の会議でもこの項目については話し合う時間があります。昨年この項目について質問の仕方を変えることを検討すると言っておきながら、変えることがなかったことは我々の反省点です。予想通りの結果となりましたし、おそらくこの聞き方をした場合今後も同じような結果になることでしょう。保護者同士のかかわりはおそらく完全にとれていないわけではなくて、個別にはとれているケースも多いはずです。このあたりは学校とも相談しながら実態調査につながるような質問にするのか要検討であると考えます。

<< 学校からのコメント >>

○学校への満足度の高さに比べ、ホームページやメールによる情報提供についての評価は、低くなっています。例年の傾向ではありますが、情報不足は不安や不信につながりますので、改善が必要な部分であります。

○ホームページから、毎日の児童の様子を知ることは、極めて普通になっています。また、ホームページが充実していて、よく更新されている方が、活気があると思われる方も多いのは事実でしょう。できるだけ早く伝えなければならない情報と、そうでないことを区別しながら、適切な情報提供に努めていきたいと考えています。

<WiFi 環境／ICT 教育について>

今年度も先生方のヒアリングにおいて、WiFi 環境についてお話をうかがいました。学校内ではだいぶつながるようになってきたとのことで、安心しました。正直この問題はそもそも ICT 教育に舵を切った段階で当然気づくべきであり、行政が気づかなかったわけはないと思われます。想定した上で予算を割り当てなかっただけではないでしょうか。いずれにしても我々外部の目から見れば行政の怠慢であると言わざるを得ません。今後ますます ICT 教育は進んでいくことでしょう。技術はどんどん進歩していくますが、それとともにシステムを動かすのに高い PC スペックが求められたり、大規模な通信環境が必要になったりすることが予想されます。厳しい言い方をすれば、環境がよくなつたといつても改善ではなくマイナスがゼロになっただけです。このまま声を緩めることなく、より充実した環境整備がなされるよう校長先生をはじめ皆さんで意見していきましょう。

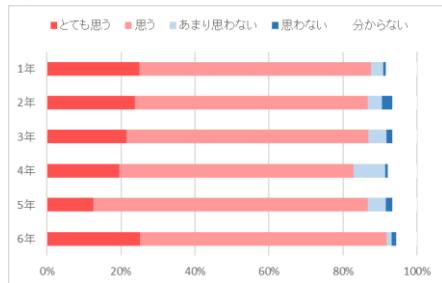
<< 学校からのコメント >>

○通信環境については、本校が大規模校であるがための不自由さがありました。タブレットを一斉に使ってアンケートや学力調査に回答するということも増えてきました。それらに対応できる環境の整備は、少しずつですが進んでいます。機器の入れ替えも今後行われ、システムも統一されていくにつれ、よりよい環境が整っていくと考えています。引き続き、要望を上げていきます。

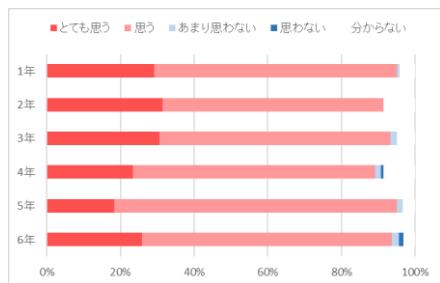
<学校と安全について>

II-(1)本校は安全な学校づくりを進めている、II-(2)本校は避難訓練やセーフティ教室などで子どもに安全に関する指導をしている、II-(3)本校は自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している、独-(6)子どもたちは安全に気を付けて登下校をしている、の4つの項目の結果をみると、II-(1)は87.0%、II-(2)は92.9%、II-(3)は82.3%、独-(6)は68.0%の肯定的評価でした。また児童アンケートでは、独-(8)私はいつも安全に気を付けながら登下校をしている、の結果をみると86.3%の肯定的評価でした。

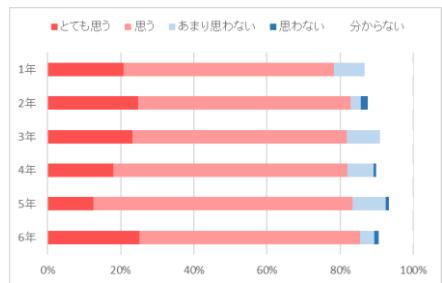
保護-11-(1)



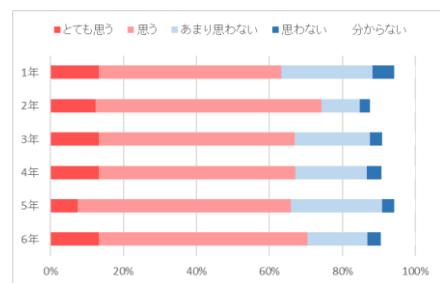
保護-11-(2)



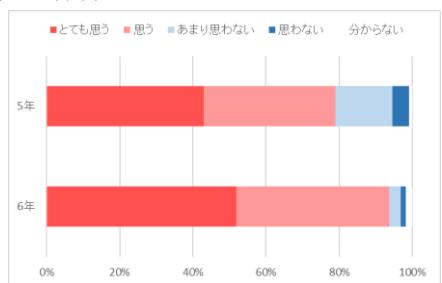
保護-11-(3)



保護-独-(6)



児童・独-(8)



ちょうど一年前、2024年1月1日に発生した能登半島地震の影響により、いまだに満足な復興を遂げていないことは我々も報道などで目にします。地震などの大規模災害だけでなく、不審者が校内に侵入したり、登下校中に交通事故にあったり、子どもたちの安全を脅かす可能性のある事案は少なくありません。保護者アンケートのII-(1)、II-(2)、II-(3)をみればわかるように、今年度も保護者からは学校の安全対策についてほとんど不安はないという結果です。新しく耐震性の高い校舎を使用しているということもありますですが、セキュリティをあげることによって誰でも簡単に学校に立ち入ることができないよう正在していることもプラスに働いていると考えます。

独自項目では、今年度も保護者と児童に対して登下校のことについて聞いてみました。結果をみる

と、安全に気を付けながら登下校できていると認識している児童は8割を超えていましたが、保護者は7割を下回っています。今年度は地域のアンケート独-(5)に、放課後や休日において安全に気を配りながら過ごしているかどうかを確認する項目を追加しましたが、その結果を見ても肯定的評価が5割であり登下校中だけでなく地域の皆さんにも安全に気を付けているようにみえています。なかなか子どもたちの意識を変えていくのが難しいことは理解できます。特に登下校においては集団心理が働き、固まっていると周りが見えなくなるものです。しかしながら、登下校中の事故やトラブルはできるだけないようにしたいですから、学校としても根気よく指導していく必要があると考えます。

<< 学校からのコメント >>

○校舎の安全性については、高い評価をいただいています。新校舎ですので、耐震性は問題なさそうです。ただ、改築後6年も経ちますと、いろいろなところが痛んできています。今後、少しづつ修繕をしていく必要がでています。

○登下校や放課後の安全については、毎年課題となっています。特に登下校中、道いっぱいに広がって歩いている様子は、指導を重ねていますが、改善されません。自転車による飛び出しは、警察から毎年指導を受けています。大きな事故につながることのないよう、指導を続けていきます。今後も引き続き、砧のまち全体で、子どもの安全を見守っていただければと考えています。

<働き方改革について>

今年度は先生方のヒアリング時に、働き方改革によって働きやすくなったかどうか、という質問をしました。ヒアリングに参加した先生方からは肯定的評価を得ることはできず、「実感できない」「行政のビジョンが見えない」「その場しのぎである」といったご意見をいただきました。評議委員としても、この方針が行政からおりてきた際に相変わらず現場が見えていないな、という感想でした。先生方がプライベートを削って仕事をしていることが常態化することはまったくもっていいことではありません。その点は働き方改革の名のもとに改善していこうという方向は納得できます。しかしながら、保護者からの電話を18時半以降つながらないようにしただけで改善されるわけではありません。電話で問合せができなければロイロノートなどで問合せがきます。これに応えないわけにはいきませんから、結局電話で対応するのと変わらず場合によっては解決までより時間がかかります。働き方改革というのであれば、もう少し役割分担が必要だと考えています。教育現場においては、係る仕事は何もかも教職員がおこなえばいい、そういった風潮が当たり前のようにこの国にはあります。しかしながら、先生方の最も大事な仕事は子どもたちに向き合うことではないでしょうか。それ以外の余計な仕事はできるだけ役割分担をして別な人間ができるようにしていくのです。先生方に余裕ができてくれば、それぞれの業務量の中でご自身で調整しながら仕事ができます。このほうがよほど働き方改革になるように思いますが、的外れなことを申し上げておりますでしょうか。

何年か前にも報告書に書いたことがあります、業務の棚卸ができていないのが大きな問題点ではないかと推測しています。本来先生方が対応する業務ではないことを先生方が担当しているケースが散見されます。確かに業務を行う別な人間を雇うとなればコストもかかるかもしれません、それを考えるのが行政の仕事です。書きはじめるときりがないのでこれくらいにしておきますが、現場でその場しの

ぎと言われてしまうような形だけの指示出して「改革」なんて言葉を使わないでほしいです。一般社会でははっきりいって通じません。それこそ現場の先生方の声をしっかりと聞いてどうしていくのがいいのかをもっと本気で考えてほしいです。

<< 学校からのコメント >>

○働き方改革について、棚卸しが必要という指摘は、その通りです。区の施策もビルト・アンド・ビルトが続き、どの学校も疲弊している部分があることは事実です。少しずつでもと、スクラップ・アンド・ビルトを目指してきましたが、教職員はまだまだ不十分を感じているようです。今までの慣習にとらわれない、新しい考え方や見方が求められてきている時期でしょう。引き続き今後の課題としていきます。

<総合所見>

昨年は山野小学校開校 60 周年を迎え、今年度はあらたな 10 年に向けた初年度を薄井校長先生をトップにすすんできました。世の中をみてみると、異常気象により各地で災害が発生したり、インフラの老朽化により大きな事故が発生するなど決して明るいニュースばかりではなかったと思います。加えて年末年始にはコロナに負けじとインフルエンザウイルスが猛威をふるい、授業が成り立たなくなったりした学校も多かったように聞いています。それでも山野小学校の子どもたちは元気にこの 1 年を過ごし、それを校長先生をはじめ教職員の皆さんや関係者の皆さんに支えてこられた結果がこうしてアンケートという形で表現されました。他校ではどうかわかりませんが、我らが山野小学校においては児童からも保護者からもそして地域からも愛される学校であるということが伝わる結果だったと感じています。我々も評価委員として誇らしい気持ちです。

今年度は、先生方の粘り強いご案内によりアンケートの回答率が前年に比べてあがってきました。そのご努力に感謝申し上げます。このアンケートはただ形だけおこなえばいいものではなく、その結果を分析することで教職員がかかえる悩みや普段の経営の中で気づかない問題などを第三者の目で考察し、行政へ進言していくためのものであると考えています。ですからより多くの保護者や関係者の皆様の声を集めていきたいという意向があります。保護者の皆様におかれましては、次年度もぜひ忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

最後に教職員の皆様へお伝えしたいことがあります。先生方のお仕事は未来の日本を支える子どもたちを育てる最前線を担うものです。先生方が働きやすい環境を作っていくことはとても大事なことであると認識しています。ぜひ現状をあきらめることなく、声を上げ続けてください。少しでもその声が行政に伝わるよう我々関係者評価委員もお手伝いしてまいります。

世田谷区立山野小学校

令和 6 年度学校関係者評価委員会

時田	学	宮崎	浩
和賀	万貴	神部	恭久
津田	美欧	阪西	由理
菊地	洋充	長島	知数